第２　（略）

１　（略）

２　判定試験用装置及び器具

⑴　環境試料並びに排出口試料用判定試験用装置及び器具

ア～ウ　（略）

エ　におい袋

無臭性のもので臭気の吸着及び透過が少ないポリエステルフィルム製又はこれと同等以上の性能を有する樹脂フィルム製で、試料の導出口として内径10㎜、長さ６㎝のガラス管又は無臭性のもので臭気の吸着及び透過が少ない材質の導出口を有し、内容積が３Ｌのものであること。

オ・カ　（略）

⑵　（略）

備考　（略）

第３　測定の方法

測定は、次の手順によって行うものとする。なお、パネルを用いて以下の測定を行う者は、第１の２に定めるパネルの選定方法により判定試験に適した嗅覚を有すると認められた者であって、臭気指数の測定に関する高度の知識及び技能を有する者であるものとする。

１　（略）

２　判定試験

⑴　判定試験の実施時期

判定試験は、試料を採取した日又はその翌日のできる限り早い時期に行うものとする。

⑵・⑶　（略）

⑷　判定試験の手順

ア　環境試料

３個のにおい袋に無臭空気を注入してシリコンゴム栓で封じ、そのうちの１個に、注射器を用いて採取試料を注入し、最初に判定試験を行う希釈倍数（以下「当初希釈倍数」という。(注１)）になるよう調製する。調製したにおい袋（以下「付臭におい袋」という。）１個と無臭空気のみを注入したにおい袋（以下「無臭におい袋」という。）２個を１組として各パネルに渡す。各パネルは、におい袋用鼻当てを用いて３個のにおい袋のうちから採取試料が注入されていると判定するにおい袋１個を選定する（以上の操作を「におい袋選定操作」という。以下同じ。）。このにおい袋選定操作を、各パネルについて３回繰り返す。

各パネルが行うにおい袋選定操作ごとに、正解率として、当該パネルが付臭におい袋を選定した場合にあっては1.00、無臭におい袋を選定した場合にあっては0.00を与え、全ての正解率を加算した値をパネル全員の延べ選定回数で除す。これにより平均正解率を得る。

平均正解率が0.58未満の場合は判定試験を終了する。平均正解率0.58以上の場合は希釈倍数を10倍して再度上記の操作を行い、判定試験を終了する。

（注１）　（略）

第２　（略）

１　（略）

２　判定試験用装置及び器具

⑴　環境試料並びに排出口試料用判定試験用装置及び器具

ア～ウ　（略）

エ　におい袋

無臭性のもので臭気の吸着及び透過が少ないポリエステルフィルム製又はこれと同等以上の性能を有する樹脂フィルム製で、試料の導出口として内径10㎜、長さ６㎝のガラス管を有し、内容積が３Ｌのものであること。

オ・カ　（略）

⑵　（略）

備考　（略）

第３　測定の方法

測定は、次の手順によって行うものとする。なお、パネルを用いて以下の測定を行う者は、第１の２に定めるパネルの選定方法により正常な嗅覚を有すると認められた者であって、臭気指数の測定に関する高度の知識及び技能を有する者であるものとする。

１　（略）

２　判定試験

⑴　判定試験の実施時期

判定試験（パネルが嗅覚を用いてにおい袋又はフラスコ中の臭気の有無を判定する試験をいう。以下同じ。）は、試料を採取した日又はその翌日のできる限り早い時期に行うものとする。

⑵・⑶　（略）

⑷　判定試験の手順

ア　環境試料

３個のにおい袋に無臭空気を注入してシリコンゴム栓で封じ、そのうちの１個に、注射器を用いて採取試料を注入し、最初に判定試験を行う希釈倍数（以下「当初希釈倍数」という。(注１)）になるよう調製する。調製したにおい袋（以下「付臭におい袋」という。）１個と無臭空気のみを注入したにおい袋（以下「無臭におい袋」という。）２個を１組として各パネルに渡す。各パネルは、におい袋用鼻当てを用いて３個のにおい袋のうちから採取試料が注入されていると判定するにおい袋１個を選定する（以上の操作を「におい袋選定操作」という。以下同じ。）。このにおい袋選定操作を、各パネルについて３回繰り返す。

各パネルが行うにおい袋選定操作ごとに、正解率として当該パネルが付臭におい袋を選定した場合にあっては1.00、無臭におい袋を選定した場合にあっては0.00、付臭におい袋を選定することが不能である場合にあっては0.33を与え、全ての正解率を加算した値をパネル全員の延べ選定回数で除す。これにより平均正解率を得る。

平均正解率が0.58未満の場合は判定試験を終了する。平均正解率0.58以上の場合は希釈倍数を10倍して再度上記の操作を行い、判定試験を終了する。

（注１）　（略）